

経営支援員 と 二人三脚



特別編として京都府事業承継・引継ぎ支援センターで取り組んだ支援事例をご紹介します。

従業員への事業承継で 西陣織の伝統を支える 綜統技術^{そうこう}を次代へ紡ぐ



「綜統」とは織機の心臓部にあたり、多種多様な織物に対応するための重要な装置です。受け継がれる熟練の技術はこれからも西陣織を支えています。

若く意欲あふれる世代へ
思いを添えてバトンパス

西陣織の精緻で艶やかな紋様は、織機で経糸^{たていと}を引き上げ、緯糸^{よこいと}が通ることによって生み出されます。亀井さんは、綜統と呼ばれるその装置づくりを50年以上にわたって受け継いできました。正倉院に収められている貴重な時代製の復元を手がける等、文化庁が認定する「選定保存技術保持者」にも選ばれています。

を肌で感じている私でしか伝えられないことがあるはず」と、暖簾を継ぐ決心をしました。

事業承継計画書を作成し
引継ぎのプロセスを明確に

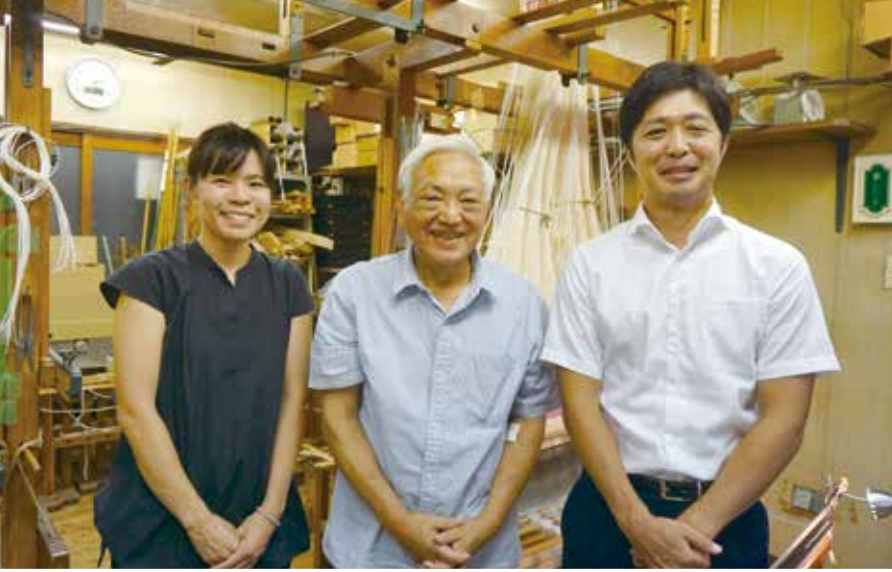
「譲る側の押しつけになつてはいけない」と考えた亀井さんは第三者の公正な視点を求めて事業承継・引継ぎ支援センターに相談。センターの専門家派遣を活用し、吾郷サブマネージャーや専門家のサポートを受け、分散していた株式の集約や新事務所を設けるための資金確保等を、福田さんと一緒に向こう7年の承継計画に落とし込んでいきました。

従業員承継で伝統産業を
次世代に

シユフロー等が理解でき、経営者としてこれから何をすればいいか明確になりました」と話します。

ステークホルダーへの周知等、取り組むべき手続きや実務が残っていますが、実直で意欲あふれる後継者を得て、亀井さんは「福田さんに会社を任せることに不安や迷いはありません」と笑みをこぼします。

かつて市内に100軒以上あった綜統事業者も、今では数えるほどしか残っていないといえます。今後は、従業員の雇用にも取り組んでいく予定で、「私自身の技術を磨くとともに、経営者として成長していきたいですね」と福田さん。伝統を紡ぐバトンは次代にしっかりと手渡しされているようです。



福田 佐季さん

亀井綜統株式会社
代表取締役 亀井 剛さん

吾郷サブマネージャー

75歳を過ぎた頃から、「自分の代で伝統を絶やしてはいけない」という思いを強くした亀井さん。3人の息子は独立していたため、「若い世代の従業員にバトンを渡せないか」と常々考えていたといいます。8年前から亀井さんのもとで働き、技術習得に取り組んできた福田さんは、承継の申し出に戸惑ったといいますが、「綜統の魅力

事業承継のご相談は
京都府事業承継・引継ぎ
支援センターまで！

亀井綜統株式会社
京都市北区紫野北舟岡町3
☎075-414-0200

